

Citation 7

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-202354

(P2000-202354A)

(43) 公開日 平成12年7月25日 (2000.7.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
B 0 5 C 17/10		B 0 5 C 17/10	
A 4 5 D 34/00	5 1 0	A 4 5 D 34/00	5 1 0 A
	34/04		5 3 5 Z
B 6 5 D 83/76	5 3 5	B 6 5 D 83/00	K

審査請求 有 請求項の数15 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-8302 (P2000-8302)
 (22) 出願日 平成12年1月17日 (2000.1.17)
 (31) 優先権主張番号 9 9 0 0 4 0 7
 (32) 優先日 平成11年1月15日 (1999.1.15)
 (33) 優先権主張国 フランス (F R)

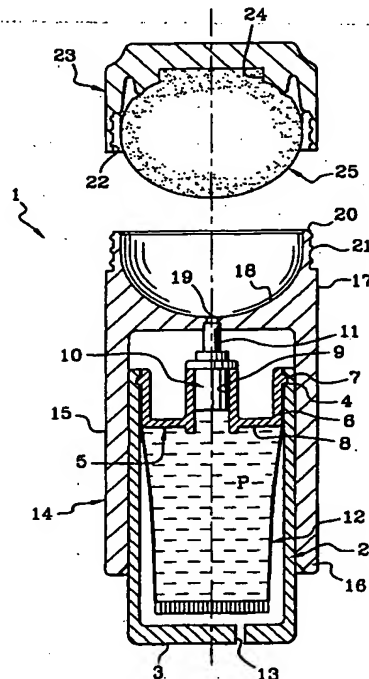
(71) 出願人 391023932
 ロレアル
 LOREAL
 フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
 (72) 発明者 ジャンールイ アッシュ, ゲレ
 フランス国 75016 パリ, アヴニュー
 レイモン ボアンカレ 27
 (74) 代理人 100109726
 弁理士 園田 吉隆 (外1名)

(54) 【発明の名称】 自動装填アプリケーションを備えた収容塗布装置

(57) 【要約】

【課題】 気密状態に保持することができ、持ち運びと取扱いが容易なアプリケーション部材を具備した化粧料等の製品の収容・塗布装置を提供する。

【課題手段】 製品収容するリザーバと、リザーバの上部に設けられ加圧下で製品を放出する放出部材とを設け、該放出部材に作動動作に応じて放出口から製品を移送させるための作動部材設け、アプリケーション部材を保持するキャップをリザーバ上に着脱自在に配設し、アプリケーション部材を、キャップがリザーバに取り付けられたときにキャップ内に気密に収容し、そのとき放出部材の作動により製品が放出され、製品がアプリケーション部材に少なくとも部分的に含浸するように、アプリケーションの少なくとも一部分を放出口の近傍に配設する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 化粧品等の製品(P)を収容し塗布するための装置であって、上記製品を収容すると共に、加圧下で製品を放出するポンプ等の放出部材(10)が上部に設けられたリザーバ(12, 2)を具備し、上記放出部材は作動動作に応じて少なくとも一の放出口から上記製品(P)の所定分量を放出するための作動部材(11)を有する一方、上記リザーバ(12, 2)の上部には、上記製品を吸収可能な多孔性部材からなるアプリケーション部材(25)とこれを保持するキャップ(23)が着脱自在に配設され、キャップ(23)をリザーバ(12, 2)に取り付けたときに、上記アプリケーション部材(25)はキャップ(23)内に気密状態で収容されると共に、放出部材(10)の作動により上記製品の所定分量が放出され、上記アプリケーション部材(25)は、放出された上記製品の少なくとも一部がアプリケーション部材(25)に含浸するように、上記放出口(19)の近傍に少なくとも一部分が配設されてなる装置。

【請求項2】 放出部材(10)がエアレスポンプからなり、リザーバ(12, 2)の容量が、放出された製品の体積に応じた量だけ減少するように構成されていることを特徴とする請求項1に記載の収容塗布装置。

【請求項3】 リザーバ(12, 2)が、可撓性の袋体(12)、可撓性の管体、弾性的に変形可能なダイアフラム等の変形可能なダイアフラムを有する瓶体、又は従動ピストン(26)を備えた瓶体(2)からなることを特徴とする請求項2に記載の収容塗布装置。

【請求項4】 放出部材(10)がシャッター部材、ダイアフラム又はピストンを有するポンプからなることを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項5】 アプリケーション部材(25)が開放発泡体もしくは半開放発泡体フォーム又はフリットの少なくとも1つのブロックからなることを特徴とする請求項1ないし4の何れか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項6】 アプリケーション部材(25)が、ポリエーテル、ポリエステル、ポリウレタン、NBR(天然ブタジエンゴム)、SBR(合成ブタジエンゴム)又はPVC(ポリ塩化ビニル)フォームの何れかからなるか、ブロンズ、ポリエチレン、ガラス、シリコン又はナイロンフリットの何れかからなることを特徴とする請求項5に記載の収容塗布装置。

【請求項7】 放出部材(10)が、キャップをリザーバ(12, 2)に取り付けたときにキャップ(23)によって作用する圧力により作動する構成とされたことを特徴とする請求項1ないし6の何れか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項8】 放出部材(10)が、剛体又は半剛体の基部(3)に作用する圧力により作動する構成とされたことを特徴とする請求項1ないし6の何れか1項に記載の収

容塗布装置。

【請求項9】 上記剛体又は半剛体の基部(3)が、リザーバ(2)の基部からなるか、上記リザーバ(12)が収容された剛体又は半剛体の容器(2)の基部からなることを特徴とする請求項8に記載の収容塗布装置。

【請求項10】 キャップ(23)が、リザーバ(12, 2)に、特にスナップ嵌合又はネジ締結により、着脱自在に取り付けられたことを特徴とする請求項1ないし9の何れか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項11】 リザーバ(12, 2)上に取り付けられると共に、アプリケーション部材(25)の形状に合致した形状を有する収容面(18)を形成する部材(14)を具備し、キャップ(23)が取り付けられたときに、上記アプリケーション部材(25)が上記収容面(18)に少なくとも部分的に載置され、上記放出口(19)が上記収容面(18)に開口する構成とされたことを特徴とする請求項1ないし10の何れか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項12】 収容面(18)が該収容面(18)に沿って製品が流れるのを許容する流路を形成可能な逃げ部を有することを特徴とする請求項11に記載の収容塗布装置。

【請求項13】 キャップ(23)を取り付けたとき、アプリケーション部材(25)が、収容面(18)とキャップ(23)の間に形成された空間の一部のみを占める構成とされたことを特徴とする請求項11又は12に記載の収容塗布装置。

【請求項14】 上記収容面(18)が概略半球状の形状を有することを特徴とする請求項11ないし13の何れか1項に記載の収容塗布装置。

【請求項15】 液体、ゲル又はクリーム状の化粧料を収容し塗布するための、請求項1ないし14の何れか1項に記載の収容塗布装置(1)。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば化粧料のような製品を収容し塗布するための装置に関する。本発明に係る装置は、液体、ゲル又はクリーム状の製品に特に適する。例としては、ケア製品、特にスキンケア又はヘアケア製品、メイクアップ除去剤又は染毛製品の収容・塗布のために使用することができる。

【0002】

【従来の技術】例えば化粧品の分野では、ある種の製品、特にミルク、クリーム又はゲル状の製品をポンプにより加圧下で分配することが行われている。エアの存在により不安定になる製品は、エアレスポンプを備えた装置にこれらの製品を収容することができる。すなわち、製品が使用されるにつれて容積が減少していくリザーバ内に収容することができる。典型的には、伸縮自在な壁部を備えた袋体、変形可能な壁部を備えた管体、又は従動ピストンが内部に配設された瓶体を使用される。

ポンプとしては、ピストンタイプ、ダイアフラムタイプ又はシャッタータイプを採用することができる。

【0003】製品を塗布するためには、使用者は、分配された製品を一本又は複数本の指で取り上げ、処理する表面に塗布し、こすりつける。あるいは、アプリケーション、特に開放発泡体フォームからなるアプリケーションを使用して製品を塗布する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】特に製品の有効期間にわたって、何度も再使用が可能なアプリケーションの場合には、使用するまでの間、空気を遮断した状態でこのアプリケーションを保管することで、アプリケーションの特に可撓性又は吸収性のような機械的特性が悪影響を受けないようにすることが望ましい。更に、使用後に洗浄しないアプリケーションの場合には、周囲の空気又はアプリケーションが保存される環境中の他の任意の物質とアプリケーション上に残っている製品とが接触すると、アプリケーションを汚したり、アプリケーションが運ぶ製品に悪影響を及ぼす危険性がある。特に使用者がハンドバッグに入れて、そのようなアプリケーションを持ち運ぶことは、問題を生じることが多い。

【0005】最後に、処理される表面の形状、特に唇又は目の隅の形状に適した形状を有するアプリケーションの場合には、製品が常に同じようにして同じ量だけアプリケーション上に上げられ、塗布と次の塗布との間で再現性があることが望ましい。

【0006】従って、本発明の目的の一つは、上述した課題の全て又は幾つかを解決する、上述した種類の収容・塗布装置、特にポンプタイプの収容・塗布装置を提供することである。特に、本発明の一つの目的は、外部の環境に対して良好な気密条件下にアプリケーションを保つことが可能な装置を提供することにある。本発明の他の目的は、持ち運びと取扱いが容易なアプリケーション部材を具備してなる、かかる装置を提供することである。本発明の更に他の目的は、アプリケーションへの製品の取り込みが再現可能な、この種の装置を提供することにある。更に他の目的は以下の詳細な説明から明らかになるであろう。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明において、これらの目的は、化粧料等の製品を収容し塗布するための装置において、上記製品が入れると共に、加圧下で製品を放出するポンプ等の放出部材が上部に設けられたリザーバを具備し、該放出部材は操作に応じて少なくとも一の放出口から上記製品の所定分量を放出するための作動部材を有する一方、上記リザーバ上には、上記製品を吸収可能な多孔性部材からなるアプリケーション部材とこれを保持するキャップが着脱自在に配設され、上記アプリケーション部材は、キャップがリザーバに取り付けられたときにキャップ内に気密状態で収容され、さらに、キャップ

がリザーバに取り付けられたときに、放出部材の作動により上記製品の所定分量が放出され、上記製品がアプリケーション部材に少なくとも部分的に含浸するように、少なくとも一部位が上記放出口の近傍に配された装置により達成される。

【0008】アプリケーション部材はキャップ内に気密状態で収容されているが、これは、本発明においては、キャップがリザーバに取り付けられたときにアプリケーション部材がキャップにより少なくとも部分的に画成される空間内に気密状態で収容され、アプリケーション部材が上記空間の全てを又は一部分を占めることを意味する。

【0009】従って、2回の塗布の間において、アプリケーション部材は外部の環境から遮蔽されて気密状態で保持される。上記アプリケーション部材が取り付けられたキャップにより、アプリケーション部材の取扱いが容易になり、指を汚さないで良好な条件下で製品を塗布することが可能になる。キャップを閉めると、アプリケーション部材は放出口に対して予め決められた状態に位置付けられる。従って、この位置において、放出部材が作動すると、アプリケーション部材に常に同じようにして、つまり同じ点に、同一量の製品が装填される。よって、なされる塗布は完全に再現性がある。

【0010】放出部材の作動は、アプリケーションキャップがリザーバに気密状態で取り付けられている間に、又はアプリケーションキャップが部分的に気密状態でリザーバに取り付けられたときに、起こる。特に、ポンプを作動する前に、アプリケーション部材を収容している空間内に過剰圧力が生じることを避けるために小さな空気の漏れをつくりだすようにアプリケーションキャップのネジを緩めることが可能である。同様に、本発明においては、ポンプの作動は、それぞれ新たに使用する前に、リザーバに取り付けられたアプリケーションキャップによりなされるが、リザーバにアプリケーションキャップを取り付けていないときにそのような作動を同様に簡単に行うことができることは明らかである。これにより、使用中に、キャップを回してリザーバ上に戻さなくとも、アプリケーションに製品を再び装填することが可能になる。

【0011】好ましくは、放出部材は、エアレスタイプのポンプである。すなわち、リザーバの容積が放出された製品の体積に応じた量だけ減少する、空気の取り込みのないタイプである。このようなポンプは、空気との接触により性質が悪影響を受ける製品の分配に特に好適である。更に、このポンプは浸漬チューブの使用を必要としない。しかしながら、使用されるポンプは、おそらくは浸漬チューブと組み合わせた、空気取り込みタイプのものでもよい。

【0012】空気を取り込まないポンプの場合には、リザーバは、特に、伸縮可能な壁部を有する可撓性の袋体、可撓性の管体、特に弾性的に変形可能なダイアフラムのような変形可能なダイアフラムを有する瓶体、又は

従動ピストンを備えた瓶体によって構成することができる。製品の所定分量が放出される場合、リザーバ容器の容積は放出された製品の体積に等しい量だけ減少し、装置の使用寿命の間中、製品がリザーバの利用可能な空間の実質的な全体を占める。

【0013】弾性的に変形可能なダイアフラムを備えたタイプの装置の例としては、本出願人による欧州特許出願公開第0743263号に記載されたタイプの構造を挙げることができ、そこでは、弾性ダイアフラムが、ポンプと押圧ボタンが取り付けられた剛体の容器の基部となっている。ダイアフラムは、その周囲が剛体の容器の壁部に取り付けられ、最初は平坦な形状であるか、製品に向かって僅かに凹か凸である。装置が使用されるにつれて、ダイアフラムは容器の内部を締め込むように例えば15ないし20mmの軸方向高さにわたって弾性的に徐々に変形することができる。この種の設計では、その形状によって、アプリケーションに更に大きな表面積を付与することが可能であり、よって身体より大きな領域、特に胸又は太股のためのアプリケーションを製作することが可能になる。

【0014】ポンプは、特にシャッター、ダイアフラム又はピストンを有するポンプからなるものでよい。このようなポンプはよく知られているので、詳細な説明は省く。

【0015】アプリケーション部材は、開放発泡体もしくは半開放発泡体フォーム又はフリットからなるものでよい。このような材料を使用すると、製品は、皮膚との接触時に毛管現象か表面張力効果の何れかにより、又は処理される表面によるアプリケーションの僅かな変形(押圧による)にตอบสนองしてアプリケーションの孔から放出され、処理される表面に塗布される。アプリケーション部材は幾つかの異なった材料、特に異なった硬度を持つフォームの積層体から製作してもよく、幾つかのフォームを開放発泡体フォームにして、他のフォームを独立発泡体フォームとすることができる。

【0016】例えば、アプリケーション部材は、ポリエーテル、ポリエステル、ポリウレタン、NBR(天然ブタジエンゴム)、SBR(合成ブタジエンゴム)又はPVC(ポリ塩化ビニル)フォームからなるか、ブロンズポリエチレン、ガラス、シリコン又はナイロンフリットからなる。放出部材は、キャップをリザーバに取り付けたときに該キャップに作用する圧力により作動することができる。

【0017】あるいは、放出部材の作動は、剛体又は半剛体の基部に作用する圧力により達成される。上記剛体の基部は、リザーバの基部から形成されるか、上記リザーバが収容された剛体又は半剛体の容器の基部から形成される。最初の例では、リザーバは、従動ピストンが摺動するように設けられた剛体又は半剛体の瓶体であってもよい。二番目の例では、リザーバは、可撓性の壁部を

有する袋体、特に紙及び／又はアルミニウム及び／又はプラスチック複合体をベースにしたものとしてでき、該袋体は半剛体ないしは剛体の外側容器、例えばポリプロピレン又はポリエチレン製の外側容器内に配設される。

【0018】放出される製品の体積を随意に変えることができる手段、特にポンプの作動ストロークを制限する手段を提供することが可能である。

【0019】キャップは、リザーバに、特にスナップ嵌合又はネジ締結により、着脱自在に取り付けることができ、ネジで締結したほうが、一般的に、気密性に優れる。気密性はシール又はシール唇部を設けて改良することができる。

【0020】特定の実施態様では、本発明に係る上記装置は、リザーバ上に取り付けられると共に、アプリケーション部材の形状に合致した形状の収容面を有する部材を具備し、キャップが取り付けられたときに、上記アプリケーション部材が上記収容面に少なくとも部分的に載置され、上記放出口が上記収容面を貫通する構成とされる。アプリケーション部材が少なくとも部分的に密に接触するこの表面は、キャップをリザーバに取り付けたとき、製品が必要に応じて毛管現象によって上昇することができる表面を形成することを可能にし、これにより、一又は複数の放出口の直ぐ近傍より遙かに遠いより広い領域にわたってアプリケーションへの装填ができるようになる。アプリケーションは、収容表面とキャップにより画成される空間全体又は空間の一部分のみを占め、後者の構成では、必要に応じて、ピストンのサクシジョン効果に伴う問題を低減させることが可能になる。アプリケーションの収容面に溝またはその他の凹凸を設けて製品が収容面の広範囲に広がるよう導くことでアプリケーションのより広い部分に製品を含浸させることができる。

【0021】好ましい実施例では、上記収容面は全体が半球状の形状を有する。また、本発明は、化粧料、特に液体、ゲル又はクリーム状のものを収容し塗布するための、本発明に係る収容・塗布装置の使用をも目的とする。上述した構成とは別に、本発明を、非限定的な意味で添付した実施例の図面を参照して以下に説明する。

【0022】

【発明の実施の形態】ここで参照する図1に示す実施形態では、本発明の収容・塗布装置は、ポリプロピレン製の円筒部材からなる剛な内側本体2を具備する。該円筒部材の断面は円形でも卵形でも楕円形でもよいし望ましければ他の如何なる形状をなしていてもよい。内側本体2の一端は剛体の基部3により閉止されている。剛体の本体2の基部3とは反対側の端部は開口しており、その内面に、中間部材5をスナップ嵌合により取り付けるための溝4が形成されている。中間部材5は側方に延びるスカート部6を有しており、このスカート部6の外面には、内側本体2の溝4とスナップ嵌合により協働可能な

ビード部7がその上縁の近くに設けられている。側方スカート部6は、反対側の端部が、横断フランジ8と直角をなすその自由端まで延びており、フランジ8自体は円筒断面の軸方向に延びる管体9に連結されている。軸方向に延びる管体9の内部には、上部をシールする出沒ステム部11が取り付けられたエアレスポンプ10が、取り付けられ、特に圧力嵌合、スナップ嵌合又はネジ締結されている。この場合はエアレスポンプである放出部材10は、製品リザーバを保持あるいは形成する構造体に取り付けられている。

【0023】中間部材5の側方スカート部6の外面に、特に接着、スナップ嵌合又は融着により取り付けられているのは、アルミニウムをベースとした複合体からなる可撓性の壁部を有する袋体12の開放端であり、この袋体の内部に製品Pが収容されている。該袋体12の開口端近傍は、中間部材5の側方スカート部6と剛な内側本体2に挟まれてこの位置に強固に保持される。

【0024】剛体の基部3は、剛体の本体12内に取り込まれた空気を逃がすための透孔13を具備しており、使用中に袋体12の容積が減少しても減圧を生じないようにしている。あるいは、空気の取り込みは、剛体の本体12の基部にフラップ弁を配することにより達成される。

【0025】アセンブリの上には、帯部14がポンプシステム部11上に設けられて取り付けられ、該帯部の円筒部15は一端16が開口したスカート部となっている。ポンプ10が休止位置にあるとき、スカート部の開口端16からは内側本体の剛体の基部3が、少なくともポンプ10の作動ストロークに対応する高さだけ(端部16から)現れている。円筒部15は、ポンプ10が作動する時に、内側本体2が摺動自在なように、内側本体2の外径より僅かに大きな内径を有している。開口端16の反対の端部(上端部)には、帯部14は、その一表面18が半球状のカップ17を有している。上記表面18はその中心近傍に、ポンプシステム部11を表面18に連通させる透孔19が形成されている。表面18に隣接したその部分では、透孔19は、ポンプシステム部の外径より僅かに小さい断面を有しており、ポンプを作動したとき、ポンプシステム部が透孔19の小断面部分に当接するようになっている。帯部14の円筒部15は、アプリケーションキャップ23のネジを締めたり緩めるための把持部となる。

【0026】表面18は透孔19と最も遠い端部が自由縁20で終り、その外面はキャップ23の対応するネジ部22と係合可能なネジ部21を備えている。キャップ23の内側スカート部24には、開放発泡体圧縮性フォームのブロックからなるアプリケーション部材25を取り付けることができる。アプリケーション部材25は特に接着又は溶着によりスカート部24に取り付けることができる。取り付けスカート部24の外側のアプリケーション部材

25はおよそ球体を形成し、その形状は、図1に図示した取り付け位置において、アプリケーション部材25が帯部の表面18と、上記表面18を通過する放出口19とに密に接触するか、あるいは上記表面18に対して圧縮されるようなものである。表面18はなだらかであっても良いし、放出口19からかなり離れた位置に製品を到達させることが可能な逃げ部、特に半径方向に延びる線条部を有していてもよい。

【0027】この種の装置を使用するには、使用者は、帯部14の円筒部15をしっかりと保持しながらキャップ23を閉じて、基部3に圧力を作用させることによりポンプ10を作動させる。この作動位置は図2(a)に示されている。このとき、ポンプシステム部11が押し込まれて帯部14の放出口19の小断面部分に当接し、これにより、ポンプシステム部11が押圧され、袋体12に入った製品Pの所定分量が運ばれる。製品がポンプシステム部11を通して袋体12を離れると、放出口19を通して帯部14の表面18に放たれ、そこで、アプリケーション部材25に接触する。製品は、特に、部分的に毛管現象により、アプリケーション部材25によりあるいは圧力により、汲み上げられる。

【0028】図2(b)では、使用者はキャップ23のネジを緩め、アプリケーション部材25を取り出す。キャップ23のネジを締めたときアプリケーション部材25を形成するフォームブロックが僅かに圧縮されるように工夫することが可能である。しかして、開放時に、フォームブロックは緩くなり、キャップ23を開めたとき吸収されなかった幾らかの製品を汲み上げることができる。また、このようにアプリケーション部材を過大寸法にすると、使用中に、アプリケーション部材の少なくとも一部分を収容面18に接触するように戻すことが可能になり、その収容面には既に製品が供給されているか同時に供給され、アプリケーションキャップを回して気密状態になるまでリザーバ上にアプリケーションを戻さなくとも、アプリケーションに製品を再び装填することができ、ポンプの作動は基部3に対して帯部14を押圧することによりもたらされる。

【0029】図2(c)では、使用者は、製品がアプリケーション部材から皮膚上に運ばれるようにアプリケーション部材25を処理する表面に適用する。このために、使用者は、アプリケーション部材25の孔から製品が放出されるようにアプリケーション部材に僅かな圧力をかけてもよく、その結果生じるアプリケーション部材の変形に応じて、処理される表面に製品を移すことができる。リザーバ上に再び配置する前にアプリケーション部材25を蛇口で水を流して洗浄してもよい。

【0030】図3に示す実施形態は、製品が剛体又は半剛体の本体2内に直接入れられている点において図1の実施形態と異なり、その内部空間は、剛体の本体内を液密的に軸方向に摺動する従動ピストン26により二つに分割されている。製品Pは空間部分の上方部分に位置す

る一方、従動ピストンと基部3の間にある空間の下方部分は空気取り入れ孔13を介して大気圧になっている。この装置の作用は、図1を参照して説明したものと同様であり、ポンプの作動は、帯部14を強固に保持し、内側本体2の基部3に作用する圧力によってなされる。製品が放出されるにつれて、ピストンが内側本体2の内部を上昇する。

【0031】図4に示す、図3に示した実施形態の変形例の場合、取り付け片5をスカート部6と逆の方向にも延長して放出される製品を直接収容する第2のスカート部としてある。第2のスカート部の下端部は従動ピストンによって閉止する。収容面18を形成する基部14をポンプシステム部11に取り付け、基部14は外部スカートを形成して、ポンプが作動するときは、スカート部9と本体2とともに基部14のスカート部内を摺動する。アプリケーションキャップ23を基部14の状端部に螺合する。アプリケーションキャップ23を取り付け片5に対して押圧すると、ポンプが作動する。

【0032】図5の実施形態は、ポンプ10の作動がキャップ23に作用される圧力によってなされる点で図3の実施形態とは異なり、この圧力により、収容面18がポンプシステム部11の上端に当接するようになるまで帯部が押圧される。このとき、このステム部は押圧され、製品が放出口19を通して表面18上へ放出される。ついで製品は毛管現象及び／又はポンプ作用によりアプリケーション部材25上へ運ばれる。先の実施形態と同様にして製品は塗布される。使用者が指を通して持ち上げることができるように、穴27がアプリケーション部材に形成されている。この特徴により、塗布の間アプリケーション部材

25を容易に保持し扱うことができる。この実施形態では、製品Pは先の実施形態において記載したものと同一の剛体の本体2に入れられている。この実施形態では、帯部14の略円筒部15と本体2との軸方向の重なりは僅かである。

【0033】上記の詳細な説明では、本発明の好適な実施形態を説明した。しかし、特許請求の範囲に記載された発明の範囲内であればその実施形態に変更を加えることができることは明らかである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る収容・塗布装置の第1の実施形態を示す縦断面図である。

【図2】 (a)ないし(c)は図1に示す装置の使用状態を示す縦断面図である。

【図3】 本発明に係る収容・塗布装置の第2の実施形態を示す縦断面図である。

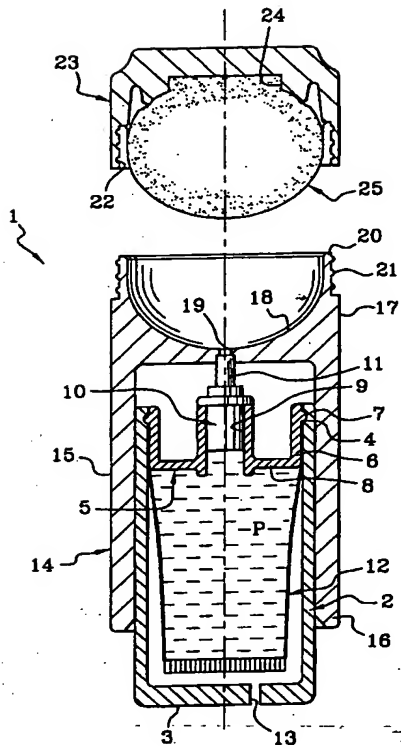
【図4】 本発明に係る収容・塗布装置の第3の実施形態を示す縦断面図である。

【図5】 本発明に係る収容・塗布装置の第4の実施形態を示す縦断面図である。

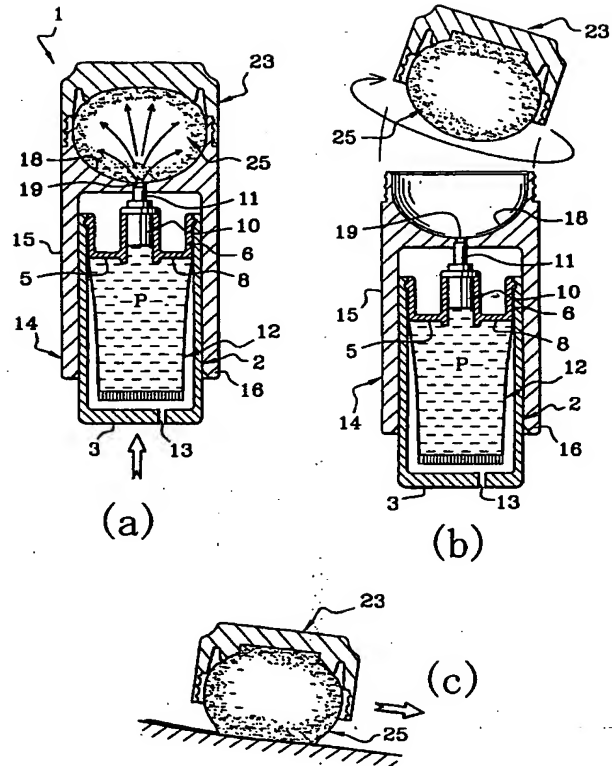
【符号の説明】

10	放出部材
2, 12	リザーバ
3	基部
11	作動部材
18	収容面
19	放出口
25	アプリケーション部材
23	キャップ

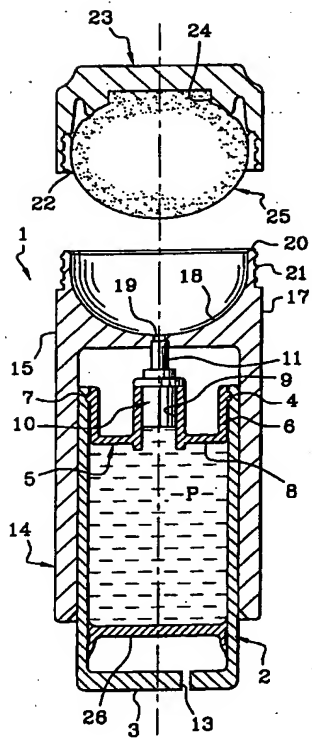
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

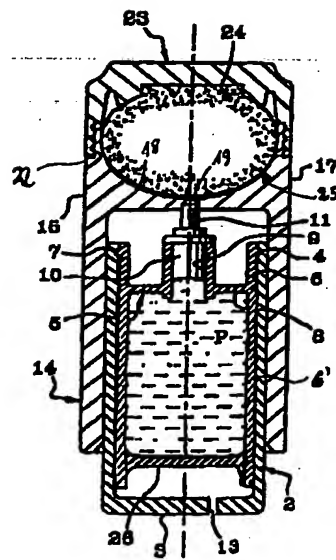


FIG. 3 bis

【図5】

